

一. 次の——線のカタカナを漢字に直し、漢字は読み方を答えなさい。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------------|
| 1 国境のゴエイにあたる兵士。 | 2 太平洋をウンコウする大型船。 | 3 ソツキンの者たちに命令する。 |
| 4 お店の照明がテントウした。 | 5 ビゾウの宝を公開してもらおう。 | 6 キリツ正しく行動しましょう。 |
| 7 ちようど劇のマクマとなる。 | 8 イベントは屋内で行われます。 | 9 人々はお土産を物色していた。 |
| 10 子宝にめぐまれた夫婦の話。 | | |

二. 例にならって、次の1、2について、それぞれの条件を満たした短文を一文で作りなさい。なお、ことばの順番を変えたり、活用（文の流れの中でことばの形を変化させること）させたりしてもかまいません。

例 「歯が立たない」、「途方もなく」ということばを使った主語・述語の整った文。

その問題は途方もなく難しく、小学生のわたしにはまったく歯が立たなかった。

- 1 「あわてふためく」、「よもや」ということばを使った主語・述語の整った文。
- 2 「もたらす」、「一心に」ということばを使った主語・述語の整った文。

三. 次の各問いに答えなさい。

(1) 「今、無料でサンプルを皆さんにあげています」の——線部分を正しい敬語に直して答えなさい。

(2) 「お客様、この町に住みなさっている感想を教えてください」の——線部分を正しい敬語に直して答えなさい。

(3) 次のア～ウのことばの□の部分に共通して入る漢字一字を答えなさい。

ア □をこらす イ □くじらを立てる ウ 裏□に出る

(4) 「しなはずはすくないがそのしょうてんにはりょうしつなしょうひんがならんでいる」という文を漢字で書き表したとき、使わない漢字二つを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 室 イ 並 ウ 品 エ 小 オ 数

(5) 次のア～エのうち、——線部分の慣用表現の使い方として正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私は失敗して落ちこんでいる友だちの胸をなでおろしてなぐさめた。

イ 大役を無事にはたした兄は、肩の荷がおりてほっとしているようだ。

ウ すずめのなみだほどのめったにない貴重な料理をふるまってもらった。

エ 話が長くなると分かりにくいので、話の腰を折って語るようにした。

四・次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

本との出会いは、つまり人との出会いと同じだ、ということをごここまで書いてきた。A、本の選び方とは、人の選び方とほぼ等しい、と容易に想像ができただろう。

人の場合は、こちらが勝手に選んでも、相手にその気がなければ会うことは難しいが、本は、勝手に選べる。相手は拒否しない。どんな有名人でも、どんなセレブでも、とつくに死んだ大昔の人でも、どこの誰かもわからない人であっても、あなたが選べば、たちまち会える。お手軽といえばお手軽だが、これを実現しているのは、印刷技術やネットなどのデジタル関連技術によるもので、つい最近になって確立し普及したもののなのである。

多くの人は、本は昔からあって、ネットはつい最近だ、と反論したいところだろう。B、今のような印刷書籍が社会一般に普及し始めるのは、日本でいえば明治になってからだし、沢山の本が出揃い、値段も手頃になり、書店がどこにでもあって、誰でも買えるようになったのは、戦後からだといっても良いだろう。ほんの数十年前まえのことだといえる。電子書籍なんて新しいものはまだ受け入れられない、という人が多いようだけれど、表紙にカラーのイラストがある文庫本だって、ちよつとまえにはなかった。超新しいのだ。大差はない。

というわけで、本選^②びは、つまり人選^①びだと思つて臨めばよろしい、という話になる。C、具体的に、誰を選べば良いのだろうか？

これは、はつきりいって、格段に難しい問題だ。本をよく読む人、読書が好きな人は、人に本をすすめることが大好きで、「面白い本はない？」ときいてほしくてしかたがない。もう、手ぐすね引いて待っている感じだ。誰もきいてくれないから、ネットで自分から呟いたり、ブログに推薦本のコーナーや、面白い本ベスト一〇〇みたいなものを作っている人も、本当に大勢いらつしやるのだ。

しかし、ちよつと待ってもらいたい。普通、友達を選ぶときに、誰と友達になったら良いか、と人にきいただろうか？ 私が推薦する友達ベストテンみたいなリストを用意している人がいただろうか？ あなたは今の友人と、どうやって友人になったのか、と考えてもらいたい。

それは、きつと、なんでもないきつかけで、たまたま、ちよつと話をしたら、という始まりだったのではないか。その出会いのとき、ちよつと話をしてみたら、なんとなく話が合つて、また会うようになった、とか。

人は、常に沢山の人の出合っている。出合っているという感覚はたぶんない。すれ違っただけとか、ちよつと頭を下げただけとか、言葉を交わしたとしても、その場限りのことだったりとか、その程度では「出会い」とは普通はいわない。しかし、そういう機会から、なんとなく顔見知りになり、もう少し近づいていく。お互いに近づこうとするから、自然に知合いや友人になる。

これは、友達だけではない。学校の先生のように、別のところで決定して、強制される出会いもあるけれど、それでも、自分に合うかどうかで、親密さは変わってくる。ある学年の先生とは仲良くなれなかったけれど、次の年の先生とは、おしゃべりをするようになったとか。

人と出合つて、そういう人間関係を築くかどうかは、個人の感覚というか、フィーリングである。自分に合った人、自分に有益になりそうな人を選ぶ。面白そうだ、楽しそうだ、いっしょに遊べそうだ、この人なら守ってくれる、この人となら長時間一緒にいられる、といった小さな判断を、あなたが「自分で」しているということなのである。

だから、これとまったく同じように、あなたが自分で本を選ぶ、というのが最も基本的なやり方だ、と僕は思う。そんな当たり前のこと、と感じるかもしれないけれど、否、その当たり前が、なかなか実現できないのではないだろうか。特に、ネットが発展した現代では、「私が読みたい本を教えてください」といった質問が某知恵袋に散見されるように、皆さん、迷える読者になっているのである。

本の選び方として、僕が指摘したいのはその一点だけ。とにかく、本は自分で選べ。それだけだ。リアル書店でも良いし、ネット書店でも良い。とにかく、面白そうな本がないかな、と選ぶ時間が大切だということもある。人から聞いたから読むとか、誰かがすすめていたから読むとかではなく、自分の判断で選ぶこと。これがもの凄く重要なのだ。もう、本書のテーマはこの一点だと思つていただいてもかまわない。

これについては、エッセイでも書いたことがある。写真の撮り方に類似しているとも書いた。カメラは今ではデジタルになって、あとで修正もできるし、誰でも簡単に写真が撮れるようになった。しかし、重要なことは、どこを撮るか、何を撮るか、という「着眼」なのである。ここを撮りなさい、あれをここから撮りなさいと言われて撮っていたら、もうあなたの写真ではなくなる。あなたは機械になったといつても良い。これと同様に、人から言われて本を読むのでは、見せられたもの、読まされたものになる。見たもの、読んだものではない、ということなのだ。

本は自分で選べ、というだけのことをくどくど書いてはいるわけだが、本当にこれが一番大切なことだ、と僕は考えている。D、子どもに対してでもそうだ。子どもに本を選ばせる方が良い。幼稚園児になるくらい年齢なら、つまり、言葉がしゃべれるようになったら、自分で選ばせる。絶対に大人が「これは面白そうだよ」などと言つてはいけない。自分で選ぶことが、本を読むことの大部分の意義だといつて良い。

さて、その次に大事なことは、その本を手に入れるために、自分の金を出すことである。これは、金を自分で稼ぐようにならないと無意味かもしれないが、子どものお小遣いも擬似的な給料みたいなものだから、だいたい、子どもの場合も同様である(ただ、幼稚園児では適外だろう)。

自分で稼いだのなら、金の価値が分かっているはずだ。どのくらいの時間、どの程度の労力でそれが得られるのか、それが「価値」の意味でもある。だから、それと交換して本を手に入れるということは、それだけ自分の持っているものを犠牲にする行為だから、さきほど書いた「自分で選ぶ」という点において、真剣さが違ってくる。

本を選ぶことが、読書の大半の価値だと書いたが、金を出して交換しようと決意した時間が、その焦点となる。まさに真剣

勝負といっても過言ではないだろう。

本は中身を読んでみないとその面白さはわからない。なのに、それを知らずに、その本を買うなんて、はっきり言ってギャンブルである。

ただ、全く情報がないわけではない。知っている作家であれば、かなり当たる確率が高くなる。E、あらすじが裏表紙や折返しに書かれているものも多い。オビにはキャッチコピーがある。何よりも、本のタイトルが、中身を象徴しているはずだ。(詐欺的なものも多数だが)。それらの少ないデータ、信頼性の低いデータから、類推するしかない。

⑤ 最初は外れを引くことが多いかもしれないが、自分で選んでいけば、しだいにコツのようなものが身につく。

(森博嗣『読書の価値』NHK出版)

問一 空らん A E に入る語としてふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア では イ また ウ たとえば エ しかし オ したがって

問二 線 I 「普及した」～ V 「ギャンブル」の本文中での意味としてふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

I 「普及した」

- ア あたり前のものになった
- イ 広く一般に行きわたった
- ウ 制度となって確立された
- エ 長く続くきまりになった

II 「手ぐすね引いて」

- ア すっかり準備を整え待ち構えて
- イ 考えを見ぬかれないようにして
- ウ チャンスをものにしようとして
- エ 落ち着きをなくしそわそわして

III 「散見される」

- ア あちこちにちらほら見られる
- イ 見ようとしないで目に入る
- ウ ちらっと見ればすぐ見つかる
- エ たくさん見ていて知っている

IV 「過言ではないだろう」

- ア 正しい表現を使用していないわけではないだろう
- イ 自分のような者が言ってもさしつかえないだろう
- ウ 実際より大げさに言っているわけではないだろう
- エ 言い過ぎてしまったとしてもきつと伝わるだろう

V 「ギャンブル」

- ア 生きるために必要な他者との競い合い
- イ かけごとやばくちといったようなもの
- ウ 考えもなくするようないたずらや遊び
- エ あまり価値がないばかげた発想や考え

問三 線①「大差はない」という部分について、「何」と「何」とが、なぜ「大差はない」のでしょうか。「何」にあたる部分は本文よりぬき出し、「時間」という言葉を必ず使って四十字以内で答えなさい。

問四 線②「本選びは、つまり人選びだ」について、ここまでのところで「人選び」ではできないことでも「本選び」ではできる、ということも述べられています。それはどのようなことを答えなさい。

問五

——線③「だから、これとまったく同じように、あなたが自分で本を選ぶ、というのが最も基本的なやり方だ、と僕は思う」という部分について、クラスで次のような話し合いが行われました。これを読んであとの問いに答えなさい。

Aさん …… この部分の、「これ」というのは()
①
を指しているね。本文に繰り返し述べられているとおり、本との出会いは人との出会いと同じだ、ということだよ。

Bさん …… 二つ前の段落に「強制される出会いもある」とあるけれど、ここはたとえば、新年度になって担任の先生や教科の先生が発表されて知る、ということなのかな。始まりは「強制」でも、どう関わるかによって()
②
は確かに変わってくるね。

Cさん …… それは最初から計画されたものでも予定されたものでもなく、お互い関わっているうちに()
③
につくりあげられていくものかもしれないね。偶然性、ということもあるだろうから、だからこそ人間関係にも読書にも思わぬ発見があるのかな。

Dさん …… そうだね。本選びも人選びも失敗するからこそおもしろいから、筆者はあえて本を推薦する人のことを認めようと思わないのだね。自分の好みや相性にそって本を人に薦める人は、本当は読書の楽しみがよく分かっている人だと言えそうだなあ。

Eさん …… 技術やネットの発達はいいことばかりではないんだね。四字熟語で言えば()
④
、慣用的な表現で言えば()
⑤
ということかな。でも、大切なのは人選びも本選びもほかにたよることなくず自分で考え自分で決めていくということだね。

(1) 空らん ()
①
に入る内容を四十字以内で考えて答えなさい。

(2) 空らん ()
②
にあてはまる語を本文からぬき出して答えなさい。

(3) 空らん ()
③
にあてはまることばを次から選び、漢字に直して答えなさい。
むかんしん そくぎ むいしき ふじゆう いとてき

(4) 空欄 ()
④
()
⑤
にあてはまることばを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| ④ 四字熟語 | ア 一利一害 | イ 一石二鳥 | ウ 表裏一体 | エ 一朝一夕 |
| ⑤ 慣用的な表現 | ア 身に余る | イ 青菜に塩 | ウ 両刃の剣 | エ 水をさす |

(5) AさんからEさんまでの発言の中で、明らかに誤った発言をしているのはどれか、記号で答えなさい。

問六

——線④「写真の撮り方」はどうあるべきだと述べていますか。「着眼」ということばを必ず使って答えなさい。

問七

——線⑤「最初は外れを引くことが多いかもしれないが」について、筆者はこの後、『つまらない』本の読み方」というところで、次のようなことを書いています。これを読み、「外れ」とも言える「つまらない本」に出会ったことが読者にとってどのようなメリット(利点)となるか、筆者の考えを六十字以内で答えなさい。

つまらないな、と感じても、とりあえず最後まで読む努力をする。そのうえでやはりどうしてもつまらない場合は、次から同様の本には慎重に、という教訓になる。同様の本というのは、同じ作者、同じようなジャンル、同じようなタイトル、あるいは似たキャッチコピーの本などである。

ところが、同じ作者でも別の作品は傑作かもしれない。同じジャンルでも面白いものはあるだろう。ただ一作ではなかなか明快な判別はできない。

それよりも、つまらないものならば、何がつまらないのか、という理由を探した方が良い。また、どこかに、もしかして気づかなかった面白い部分があるかもしれない。ものの方というものはある。なかには、砂金を取り出すくらい苦労しないと価値が見つからないものもあるにはある。それでも、なかには得られるし、それを探す技術が身につく。結果的に自分が成長できるのだから、これは明らかに得をしていることになるのだ。

問八

本文を読み、本選びは自分でする、という筆者の意見に対してあなたは賛成ですか、反対ですか。その理由もふくめ、これからあなたはどのように読書していきたいかを六行以上で作文しなさい。

一（十点／各一点）

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|------|---|-------|----|------|
| 1 | 護衛 | 2 | 運航 | 3 | 側近 | 4 | 点灯 | 5 | 秘蔵 |
| 6 | 規律 | 7 | 幕間 | 8 | おくない | 9 | ぶっしょく | 10 | こだから |

二（十点／各五点）

- 1 よもや私が学級委員に選ばれるとは思わず、あわてふためてしまった。
- 2 戦争反対を一心に願う人々の努力により、その国に平和がもたらされた。

三（十点／各二点）

- (1) さしあげて
- (2) お住みになっている
- (3) 目
- (4) ア エ
- (5) イ

四（七十点）

⑤問一 A オ B エ C ア D ウ E イ （各一点）

⑩問二 I イ II ア III ア IV ウ V イ （各二点）

⑥問三 印刷書籍も電子書籍もできてからそこまで時間が経っていない、新しいものであるから。 （四十字）

⑤問四 相手がだれであっても、自分さえ望めば手軽に出会えるということ。

⑭問五

⑧(1) 人間関係を築くときには、個人のフィーリングに沿って感覚的に自分から選ぶということ （四十字）

②(2) 親密さ

②(3) 無意識

④(4) ア ウ

③(5) Dさん

⑤問六 着眼点を大切にし、自分から主体的に対象を決めて撮ること。

⑧問七 つまらなくても最後まで読むことから学べることであり、また、つまらない理由を探すことで自分の成長につながるというメリット。（六十文字）

⑫問八 自由解答